丹波路を行く

「デカンショ」がつなぐ、伝統と未来

丹波篠山

令和がスタートした今年5月、
住民投票による市名変更で、
兵庫県内に
「丹波篠山市」(旧・篠山市)が誕生した。
日本遺産とユネスコ創造都市の
2冠を獲得し、
耳目を集める市域だ。
そのキーワードは「デカンショ」。
ふしぎな響きの言葉
「デカンショ」と、
まちづくりの経緯を探るべく、
同市と周辺地域を訪ねた。

築城とほぼ同時に建てられた大書院。天下普請の篠山城は、わずか1年弱の突貫工事で完成した

大書院

1.大書院で最も格式の高い部屋。慶長年間頃の正規書院造りを再現している　2.大書院内に、復原建築工事の構造模型と篠山城鬼瓦を展示　3.青山歴史村に、一昨年オープンしたデカンショ館の内部展示

山に囲まれた城下町のソウル・ソングを訪ねて

「デカルト・カント・ショーペンハウエル」。哲学者3人の名を連ねたこの言葉が、「デカンショ」の語源ではないかと言われる。

明治後期、丹波篠山の若者らが関東へ遊学した際、東京一高の学生たちと出合い、故郷の民謡を伝授した。やがて東京の学生たちの間で大流行し、全国に波及する。

♪デカンショ　デカンショで半年暮らす(ヨイヨイ)
あとの半年寝て暮らす
(ヨーイ　ヨーイ　デッカンショ)

ご存じの方も少なくないだろう。篠山市民のソウル・ソングとも言えるデカンショ節だ。名所や人情、時代を読み込んだ歌詞は、今も振興会の募集で増え続け、300番以上に。地域の活性化活動「丹波篠山　デカンショ節―民謡に乗せて歌い継ぐふるさとの記憶」として、文化庁「日本遺産」第1号の認定を受けた。

♪オラが殿さは　六万石よ　今じゃのどかな城下町

篠山城は1609年(慶長14年)、徳川家康が大坂城攻略の拠点として、西国諸大名を動員して建築した。立地は四方を山に囲まれた盆地で、山陰と京・大坂を結ぶ交通の要所だった。

家康の命で天守閣は築かれず、二の丸の大書院を中核施設とした。篠山藩五万石(のち六万石)の藩主は、いずれも江戸から移って来た譜代大名の松平三家、青山家に引き継がれた。

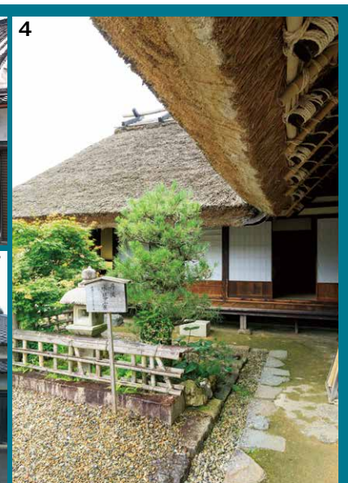
大書院は、1944年(昭和19年)に焼失するが、2000年(平成12年)に復元。市民の希望と寄付が、その原動力となった。木造住宅建築として、また、一大名の書院としては破格の規模で、古式の建築様式や装飾が見どころ。

篠山城の濠周りには、青山家の別邸を改築した「青山歴史村」、茅葺き曲屋形式の武家屋敷跡「安間家史料館」があり、藩政時代を偲ばせる。また、日本最古の木造裁判所を活用した「歴史美術館」、旧・篠山町役場を再利用した商業施設「大正ロマン館」があり、近代建築も充実。一昨年に開館した「デカンショ館」では、VR望遠鏡やシアターでデカンショ文化を体感できる。

♪酒は飲め飲め　茶釜でわかせ
お神酒(みき)あがらぬ神はない

丹波篠山は黒豆、栗、ぼたん鍋などの美食で知られ、酒造りも有名。丹波篠山の古民家は、こうした特産物を使った土産物店やカフェとして利用されており、Iターンのアーティストなどが暮らす家屋も

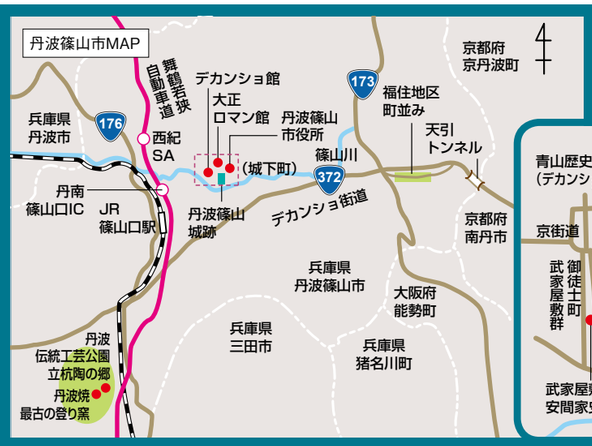
城下町



4.御徒士(おかち)町の武家屋敷跡、安間家史料館　5.築200年以上の鳳鳴酒造ほろ酔い城下蔵　6.酒蔵内に保存された木製の蒸し器や桶　7.黒豆卸商の老舗、小田垣商店　8.大粒で上品な甘さの黒豆製品　9.大正建築の町役場を保存利用した大正ロマン館

デカンショと丹波杜氏

デカンショ節には、酒を歌ったものが多い。「丹波杜氏」は、農閑期に伊丹や灘の酒どころへ出稼ぎをして高い技術力を提供、名声を得た。デカンショの語源を「出稼ぎしよう」のなまりとする説もある。上記の歌詞「半年寝て暮らす」は、つらい出稼ぎを終えてゆっくり寝たい、という杜氏の夢を描いたものと言われる。



デカンショ
踊り子像

福住

10.街道に沿って、間口の広い重厚な木造建築が並ぶ宿場町・福住。重伝建地区の西端、本陣跡付近の佇まい　11.福住の東側に連なる農村集落には、茅葺きの建築も残る　12.本陣跡に建つ市営団地。白壁やスギ板の意匠が周囲の景観と調和している

福住伝統的建造物群保存地区について解説する案内板

ある。住民の郷土意識は高く、市民活動も盛んだ。

城下町では、黒豆製品の小田垣商店、清酒醸造元の「鳳鳴酒造ほろ酔い城下蔵」など、老舗の伝統建築をぜひ訪ねておきたい。

旅籠や商家が軒を連ねた宿場町の面影を留める福住

♪丹波篠山　福住街道　今に残せし宿場町

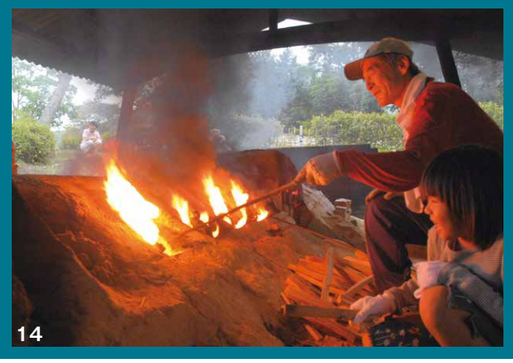
丹波篠山市には国の重要伝統的建造物群保存地区(重伝建)が2カ所ある。これは兵庫県内の重伝建5カ所の約半数に当たる。1カ所目は前述の篠山城下町で、もう1カ所は福住(ふくすみ)。篠山城から京都へ向かう京街道(山陰道)の宿場町だ。同市の南東部に位置し、南は大阪府、東は京都府と接している。江戸時代には、格式高い宿場に設けられる本陣・脇本陣もあった。

保存地区指定は、東西に伸びる街道沿いの4集落。東の農村集落は、西端にある福住の宿場機能を補っていた。興趣をそそるのは、宿場町と農村集落との調和。宿場町の瓦葺き2階建てと、農村の茅葺き・鉄板葺き平家建てが、歴史的な風景のアンサンブルを奏でる。

ユニークなのは、市営福住本陣団地のデザインだ。白壁とスギ板でデザインした木造2階建ての長屋方式5棟が、本陣跡に建つ。そのほか、旧・国鉄篠山線の終点、福住駅のホームがJA建物の裏側に残り、戦時中の鉄道敷設と中断、戦後の廃線の記憶を静かに物語る。

丹波焼

13.上立杭に現存する、丹波焼最古の登り窯　14.左の登り窯は近年大修復され、毎年春に焼成を行っている　15.立杭陶の郷で展示販売する作品　16.同館内のギャラリー「窯元横丁」には、50余軒の窯元出張ブースが並ぶ



約800年の歴史を誇る、野趣味豊かな丹波焼

♪土と炎と匠の業(わざ)が　冴える丹波の登り窯

日本六古窯に数えられる丹波焼。同市今田町周辺の土を主な原料とし、そこで生産された陶器を立杭焼、または丹波焼と呼ぶ。起源は、平安末期から鎌倉初期とされ、17世紀初めに、従来の穴窯から登り窯へと移行した。

素朴で野趣味に富んだ作品が中心だが、バリエーションが広く、作家の個性が際立つ。現在、60余軒の窯元があり、比較的、後継者にも恵まれているとのこと。迷路のような町内の随所に工房が見られる。また、明治中期の築造で、現存最古の登り窯が近年修復され、山裾に威容を示す。向かいの山腹に建つ「立杭陶(すえ)の郷」では、名品の展示を行い、窯元の出張ブースが一同に並ぶ販売コーナーや、体験工房も備える。

丹波焼は六古窯の一つとして日本遺産に認定。また4年前、同市は「ユネスコ創造都市ネットワーク」クラフト&フォークアート(工芸)分野に加盟認定され、世界各地の認定都市と交流を進める。獲得した複数のタイトルは、郷土愛を育み、明日を築く牽引役となってきた。

日本遺産は伝統、ユネスコ創造都市は未来を想起させる。その伝統と未来をつなぐのがデカンショ節。丹波篠山は、過去から未来にわたる、郷土への思いをすべて歌い込んだ「デカンショ」のまちだ。

豊富な文化的資源、良質な特産品を世界に発信

丹波篠山市
観光政策官
山本 高久さん

丹波篠山市
商工観光課 課長
赤松 一也さん

丹波篠山市は、京阪神から約1時間の距離にありながら開発の波に乗らず、伝統文化を守ってきました。城跡と、その周りの武家屋敷、商家のまち並みが揃って残る地域は珍しいと思います。さらにその周辺に農村、山々が広がり、日本の原風景を思わせます。8月のデカンショ祭は2日間、10月の味まつりは3日間でそれぞれ約8万人を集客。「小さい町だが、文化の豊かさや特産物の質の良さでは引けを取らない」という市民の思いと共に歩み、2つの日本遺産認定と、ユネスコ創造都市ネットワークへの加盟を達成。さらにブランディングを進め、世界にアピールできる丹波篠山市を目指しています。

日本遺産

地域の歴史的魅力や特色を通じて、日本の文化・伝統を語るストーリーを認定し、地域活性化を図る制度。文化庁が認定。

JAPAN HERITAGE
日本遺産

ユネスコ創造都市ネットワーク

文化芸術と産業経済との創造性に富む都市として、ユネスコが7分野で認定する。クラフト&フォークアート分野の認定は、国内で金沢市と丹波篠山市のみ。

United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization
Designated UNESCO Creative City in 2015

爽快な風景が広がる「たんば三街道」

福住の西側に立つ「デカンショ街道」の看板とカツラ並木。遠くに青い山々が眺められ、ドライブに最適だ

兵庫県内の丹波地域を縫うように走る「丹波の森街道(国道427号・176号)」「水分れ街道(国道175号)」「デカンショ街道(国道372号)」。風光明媚な道を行くと名所が次々現れる。日本風景街道の一角を成している。